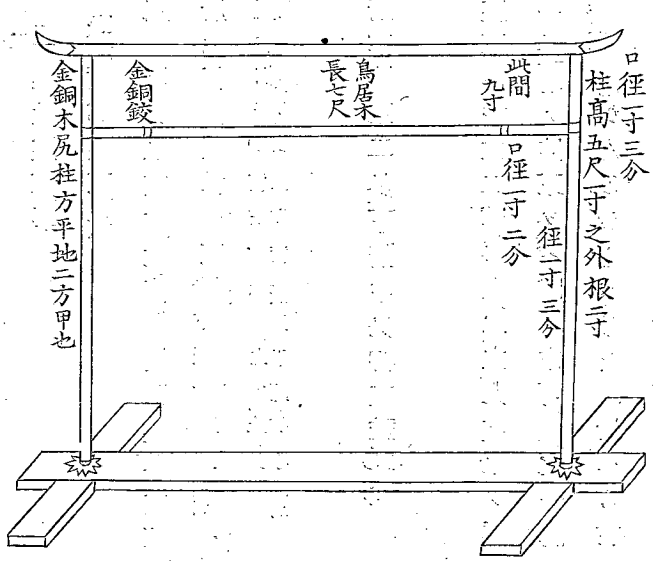
詩、翡翠鳴衣桁と有は、是衣を曝す竿なり、

衣架製作

〔類聚雜要抄 四〕衣架一雙

懸裝束料



横土居厚三寸、同下彫四寸、同深八分、
同長二尺一寸、弘四寸、長六尺一寸二分、
弘三寸、厚二寸、面四分、材木七、六、木一支、
檜榑二寸
木道單功百疋 各十疋五
漆二升
同脛金圓座
又蒔繪時ハ
書料十四疋 各七疋
磨料百四十疋 各十疋七
金物買直六百八十疋 各四十三百疋

衣架用法

〔雅亮裝束抄 一〕もやひさしのてうどたつる事

帳のひんがしのまにひんがしにそへて、いか二つを、きたみなみにたてゝ、そのうしろに五尺の屏風を三帖たつべし、まへにたゝみ二枚をしくべし、つねはいかひとつをたてゝ、屏風も一帖たてゝ、たゝみも一枚しく、つねの事なり、御さうぞくをかくることあらば、まづ御はかまを、いかのしものこしに、みなみにむけて、右をうへにたゝみて、こしひきのべてかくべし、かみのこしに、御